

令和3年度 学校評価 前期(9月)報告書

※ 評価の観点とは、(R2前期→R3前期) (より肯定+肯定) ※前期は前年度前期と比較。後期は、同じ年度の前期・後期で比較

重点目標	具体的な取組	主担当	現状 (R2前期→R2後期)	評価の観点 (R2前期→R3前期)	達成度判断基準	判断基準	備考	
1 ★ 確かな学力の育成	① 教員の指導力向上	ア 「主体的・対話的で深い学び」の具現化を目指した授業づくりの充実 「予想-協働-振り返り-課題発見」の3つのステップを意識した授業展開の共通実践 ICT環境の整備とその活用	研究主任+教科代表 ・ 温かい人間関係の育成と、思考力・判断力・表現力等の育成のための授業づくりの2本柱で取り組んでいる。 ・ 教職員の積極的な教材・教具や授業の工夫により教科が好き・わかりやすいと感じている生徒が非常に多い。 「教科が好き」前期89.6%→後期89.5% 「授業がわかりやすい」97.3%→97.2% ・ 学力向上プランや学力向上ロードマップを生かしながらより組織的に学力向上に取り組んでいくことが重要である。 ・ ICT環境とその活用を授業づくり部会で企画提案していくことが重要である。 【成果指標】(生徒) 【授4】考えを出し合い話し合う時間がある(■)。 ・ 1年:92.6%(61.0+31.6)→88.6%(59.4+29.2) ・ 2年:91.9%(66.2+25.7)→91.5%(71.8+19.7) ・ 3年:93.9%(71.4+22.5)→95.1%(70.6+24.5) ・ 全学年:92.8%(66.1+26.7)→91.7%(67.1+24.5) ・ 授業がよくわかる(□) 【授1】97.3%(74.0+23.3)→97.2%(75.4+21.8) ・ 【満足度指標】(保護者)【保4】授業がわかりやすいと言っている。81.6%(30.3+51.3)→84.5%(34.1+50.4)	・ 【努力指標】(教員) 課題設定や授業展開、教材・教具の開発など学習意欲の向上を図るための工夫をしている【教4】89.5%(73.7+15.8)→100%(76.5+23.5) ・ 生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導をしている。【教5】94.7%(52.6+42.1)→82.4%(41.2+41.2) ・ 学力向上プラン、学力向上ロードマップに基づく指導をしている。【教11】84.2%(36.8+47.4)→88.2%(41.2+47.1) ・ 課題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力を育成する指導をしている。【教3】84.2%(42.1+42.1)→94.1%(58.8+36.3) ・ デジタルテレビや実物投影機、ホワイトボード等の視聴覚教材を活用した授業に努めている【教9】94.7%(68.4+26.3)→88.2%(70.6+17.6) ・ 【成果指標】(生徒) 考えを出し合い話し合う時間がある(■)【授4】1年:92.6%(61.0+31.6)→91.3%(70.1+21.1) 2年:92.0%(66.2+25.7)→88.9%(64.0+24.9) 3年:93.9%(71.4+22.5)→96.3%(74.8+21.1) 全学年92.8%(66.1+26.7)→92.2%(69.7+22.6) ・ 授業がよくわかる(□■) 【授1】97.3%(74.0+23.3)→95.9%(73.2+22.7) ・ 【満足度指標】(保護者)【保4】授業がわかりやすいと言っている。81.6%(30.3+51.3)→82.2%(27.2+54.9)	より肯定的に答えた教員の割合 A 前期評価 +10%以上 B ±10%以内 C -15%未満 D -15%以上	-15%以上の場合、再検討	B C B A B A	◎ 課題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力を育成する指導をしている。【教3】は94.1%であり、新学習指導要領での「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の意識は高い。思考を深めるための発問や指導の工夫を2学期は取り組んでいく。 ◎ 生徒の「考えを出し合い話し合う時間がある」が、92.2%と概ね良好である。 ◎ デジタル教材の使用意識は高く、タブレットを使用した授業が行われている。
			・ 各教科の身に付けさせたい「見方・考え方」や「資質・能力」の育成を目指した3ステップ「①予想→②協働→③振り返り・課題発見」を柱とした授業力向上に取り組んでいる。年度当初に共通理解を図り、日々の授業はもとより学校訪問・要請訪問・校内研究会等を通して授業実践を積み上げていくことが大切であると考えている。さらに振り返りや適用問題の活用に重点を置いて取り組みたい。 ・ 【努力指標】(教員) 3ステップを意識した授業展開を工夫している。【教10】78.9%(47.4+31.6)→88.2%(52.9+35.3) ・ タイムマネジメントを意識して授業をしている。【教1】100%(68.4+31.6)→100%(64.7+35.9) ・ 【成果指標】(生徒)【授5】まとめや振り返りの時間がある(■)。 93.0%(68.2+24.8)→93.0%(72.4+20.6)	肯定的に答えた教員の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	80%未満の場合、再検討	B A	◎ 3ステップ授業「予想-協働-振り返り・課題発見」や授業でのタイムマネジメントの意識は高い。「まとめ・振り返り」で学びを定着できるよう校内研究を推進しく。	
② 基礎基本の定着と活用力の育成	ア 学習規律の定着と家庭学習の習慣化に向けた取組の推進	研究主任+生徒指導主事+教科代表	・ 学年や各教科担任等から学習規律を指導したりきめ細かく宿題を出すなどの指導を ・ また、教師の指導だけでなく、生徒会の自治活動を生かした学習規律や家庭学習の充実を図っている。 ・ 生徒会執行部が全校集会で学習規律の手本となる姿を寸劇で示したり、学年プロ委がベル学等について呼びかけ・確認したことを掲示(見える化)したりしている。 ・ 家庭学習の充実では、学習時間マラソン(学級表彰)や絆(生活ノート)への学習時間の記入、「ずばり出でしよう」(全生徒による定期テストの予想問題づくりを行い、その問題を演習する取組)などの取組を充実させ、自ら学びに向かわせたいと考えている。 ・ チャイムが鳴る前に着席し、学習を始めている。【生9】97.9%(58.4+39.5)→95.3%(56.8+38.6) ・ 授業の終始のあいさつは声を出し、椅子を入れている。【生10】97.5%(87.8+9.7)→99.2%(86.9+12.3) ・ 授業中、先生の話聞いている。【生12】98.3%(79.0+19.3)→98.3%(79.2+19.1) ・ 自分で計画を立てて勉強している(☆□) 【生20】82.8%(48.3+34.5)→78.4%(39.0+39.4)	・ 【成果指標】(生徒) チャイムが鳴る前に着席し、学習を始めている。【生9】97.9%(58.4+39.5)→92.6%(58.8+33.8) ・ 授業の終始のあいさつは声を出し、椅子を入れている。【生10】97.5%(87.8+9.7)→97.2%(86.1+11.1) ・ 授業中、先生の話聞いている。【生12】98.3%(79.0+19.3)→95.8%(73.6+22.2) ・ 【努力指標】(教員) 私語をしない、授業のチャイムを守るなど、学習規律の指導をしている。【教12】94.7%(68.4+26.3)→100%(64.7+35.3) ・ 【成果指標】(生徒) 家庭で毎日学習している。【生26】93.7%(64.6+29.1)→87.5%(55.6+31.9) ・ 自分で計画を立てて勉強している(☆□■) 【生20】82.8%(48.3+34.5)→85.2%(47.7+37.5) ・ 【努力指標】(教員) 家庭学習の充実に向け具体策を講じている。【教19】94.7%(57.9+36.8)→94.1%(29.4+64.7) ・ 【満足度指標】(保護者)(☆) お子様は、自分で計画を立てて勉強している。【保6】70.2%(31.9+38.3)→69.5%(24.9+44.6)	肯定的に答えた生徒の割合 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	85%未満の場合、再検討	B A A A	◎ 学習規律(チャイム学習、授業の終始のあいさつ、話を聞くなど)は、おおむね良好である。
			・ 自分で計画を立てて勉強している(☆□) 【生20】82.8%(48.3+34.5)→78.4%(39.0+39.4)	肯定的に答えた生徒の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	80%未満の場合、再検討	B	◎ 各教科のワークブック・プリントなどの宿題や各学年からの課題により、多くの生徒は毎日学習している。計画を立てて勉強していると肯定的に回答している生徒が、85.2%と高い。昨年度と比べて+2.4%である。	
	イ 学力調査問題の活用と弱点克服のための取組の推進	研究主任+教科代表	・ 高松中学校学力向上ロードマップに基づき、研究企画(担当者)が中心となった教職員全員による早期自校採点・検証・改善が定着してきている。 ・ 【努力指標】(教員) 「高松中学校学力向上プラン」に基づく指導をしている。【教11】84.2%(36.8+47.4)→88.2%(41.2+47.1)	・ 【努力指標】(教員) 「高松中学校学力向上プラン」に基づく指導をしている。【教11】84.2%(36.8+47.4)→88.2%(41.2+47.1)	より肯定的に答えた教員の割合 A 65%以上 B 60%以上 C 55%以上 D 55%未満	55%未満の場合、再検討	D	◎ 教科ヒアリングや研究主任からの働きかけを行い取組が確実に行えるようにする。学力向上プランに基づいた指導を行っている教員は、88.2%と昨年より上昇し、意識の高まりが見られている。
			ウ 読書活動の推進	図書担当+学年主任	・ 【成果指標】(生徒)(□) 読書が好きである。【生27】81.1%(54.2+26.9)→77.3%(54.2+23.1) 図書貸出数(1学期)8.9冊/人→12.7冊/人	肯定的に答えた生徒の割合 A 80%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	65%未満の場合、再検討	B

重点目標	具体的な取組	主担当	現状 (R2前期→R2後期)	評価の観点 (R2前期→R2前期)	達成度判断基準	判断基準	備考
2 心豊かな生徒の育成	① ★自己肯定感の育成	ア 生徒会活動及び学校行事の充実と活性化 生徒会担当 学年主任 + 教務主任	・ 生徒会は、あたたかな人間関係を大切にしたい。日本一の学校を合い言葉として取り組んでいる。「挨拶・清掃・校歌」の伝統3項目に加え、活発な委員会活動を通して、取組の見える化(見せる化・意識化)・呼びかけ・確認まで行っている。 ・ 【成果指標】(生徒)【生5】学校行事は楽しい96.6%(74.8+21.8)→95.8%(76.3+19.5)	【努力指標】(教員)【教17】 ・ 生徒会活動や学校行事の充実を努めている。85.0%(50.0+35.0)→88.9%(50.0+38.9) 【成果指標】(生徒)【生5】 ・ 学校の行事は楽しい。96.6%(74.8+21.8)→93.5%(71.3+22.2)	肯定的に答えた教員の割合 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 肯定的に答えた生徒の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	80%未満の場合、再検討 80%未満の場合、再検討	C A
	イ 「認める」「褒める」生徒指導の推進と自分の良いところを見出せるキャリア教育の充実 生徒指導主事 + キャリア教育担当	・ 生徒の自己肯定感、概ね良好である(87.0%→88.3%)。教職員-生徒、生徒-生徒相互の関係があたか。また、教職員は、生徒を的確に見取り、個々の生徒の成長や活躍、努力の様子をタイムリーに認めたり褒めたりしている。 ・ 日常(授業や学活等)と各学年の進路指導を結びつけながら指導することで、夢や目標を持っている生徒は多い。 ・ 将来の夢や目標を持っている(☆□)。86.6%(67.6+18.9)→86.0%(61.4+24.6) ・ 自分には良いところがあると思う(☆□)【生28】84.0%(56.7+27.3)→86.0%(51.3+34.7) ・ お子様は将来の夢や目標を持っている。(☆)83.3%(44.0+39.3)→79.3%(44.4+34.9)	【努力指標】(教員)【教14】 ・ 将来の夢や目標を考えさせる指導をしている。85.0%(45.0+40.0)→94.4%(44.4+50.0) ・ 生徒を褒めたり励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている。【教15】100%(70.0+30.0)→100%(72.2+27.8) 【成果指標】(生徒)【生19】 ・ 将来の夢や目標を持っている(☆□)。86.6%(67.6+18.9)→86.6%(58.3+28.2) ・ 自分には良いところがあると思う(☆□)【生28】84.0%(56.7+27.3)→79.6%(46.3+33.3) 【満足度指標】(保護者)【保19】 ・ お子様は将来の夢や目標を持っている。(☆)83.3%(44.0+39.3)→79.8%(41.3+38.5)	肯定的に答えた教員の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 肯定的に答えた生徒の割合 A 85%以上 B 83%以上 C 80%以上 D 80%未満 肯定的に答えた生徒の割合 A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満 肯定的に答えた保護者の割合 A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満	80%未満の場合、再検討 80%未満の場合、再検討 65%未満の場合、再検討 65%未満の場合、再検討	A A A A	◎「夢や目標を持っている」生徒は、86.6%と概ね良好である。キャリア教育等を通して、より具体的な目標を持たせ日々の生活を積極的に送らせたい。 ◎行事や授業等で、生徒の頑張りや成長をしっかりと観察し、認める・褒める指導を継続して行っていく。
	ウ 生徒を活かしたタイムリーな掲示の充実 学年主任	・ 各行事や取組毎に教職員は、掲示で成果を伝えている。 ・ 創作部や生徒作品、生徒会活動等によるあたたかな掲示に学校全体が溢れている。	【努力指標】(教員)【教13】 ・ 時期に応じた掲示の充実を図っている。75.0%(45.0+30.0)→88.2%(52.9+35.3)	肯定的に答えた教員の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	75%未満の場合、再検討	B	・ 行事等を通して成長を実感できる掲示に努めていく。
② 気になる生徒への適切な指導の充実	ア ★「不登校」の未然防止と「いじめ」をしない・させない・見逃さない雰囲気づくり 生徒指導主事 教育相談 + 学年主任 生徒会担当	・ 学校へ行くのが楽しいは、良好である91.6%(69.3+22.3)→92.8%(67.4+25.4) ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うが、100%→98.7%と減少している。「いじめは絶対に許されない」という強い気持ちを育てていきたい。 ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。【生31】98.7%(95.8+2.9)→98.7%(94.9+3.8) ・ 「学校におけるいじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる」と感じている保護者は、86.4%(23.8+62.6)→86.6%(27.2+59.5)であった。肯定的な評価が高まるように取り組んでいきたい。	【成果指標】(生徒)【生4】 ・ 学校へ行くのが楽しい(☆)。91.6%(69.3+22.3)→90.7%(63.0+27.8) 【成果指標】(生徒)(☆□) ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。【生31】98.7%(95.8+2.9)→97.7%(89.8+7.9) 【満足度指標】(保護者) ・ 学校におけるいじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる。(☆)【保16】86.4%(23.8+62.6)→83.1%(24.9+58.2) ・ 子どもは学校生活が楽しいと言っている。(☆)【保1】97.0%(55.7+41.3)→93.9%(50.7+43.2)	肯定的に答えた生徒の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 より肯定的に答えた生徒の割合 A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 肯定的に答えた保護者の割合 A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満 肯定的に答えた保護者の割合 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	80%未満の場合、再検討 90%未満の場合、再検討 65%未満の場合、再検討 85%未満の場合、再検討	A B A B	・ 「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した生徒は、97.7%であった。「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を醸成する。また、道徳教育等を通して指導の充実を図る。 ◎いじめの未然防止や早期発見のため保護者との連携を図っていく。困り事アンケートなど保護者と連携しながらいじめ撲滅を推進していきたい。「学校へ行くのが楽しい」と思えるような取組や行事を工夫していく。
	イ ★特別に支援を要する生徒への共通理解と合理的配慮を意識した個に応じた支援の充実 特別支援教育担当 + 生徒指導主事	・ 「先生は、生徒の話に耳を傾けてくれる」【生8】が、97.5%→97.5%と大変良好であった。日頃、誠実に生徒と対応している成果である。 ・ 「学校は相談や問い合わせに適切に応じてくれる。」【保12】も、97.4%(40.4+57.0)→94.8%(45.5+49.4)。迅速で誠実な対応の成果である。	【努力指標】(教員) ・ 生徒理解に努め、気になる生徒に積極的に対応している。【教16】100%(75.0+25.0)→100%(76.6+29.4) 【満足度指標】(保護者) ・ 学校は相談や問い合わせに適切に応じてくれる。【保12】97.4%(40.4+57.0)→94.8%(40.4+54.5)	肯定的に答えた教員の割合 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 肯定的に答えた保護者の割合 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	80%未満の場合、再検討 85%未満の場合、再検討	A B	◎「先生は、生徒の話に耳を傾けてくれる」【生8】98.6%、学校は相談や問い合わせに適切に応じてくれる。【保12】94.8%と良好である。引き続き、生徒・保護者の話を傾聴し、考えを理解しながら対応していきたい。
③ 道徳教育の充実	ア 地域人材を活用するとともに、適切な資料や教材を充実させ、「考え議論する道徳」授業の推進 教務主任 + 道徳教育担当 研究主任	・ 「特別の教科 道徳」の実践を積み上げ、「考え議論する道徳」の実現に向けて中心発問の工夫や構造的な板書、教材・教具の工夫(プレゼンテーション)等についての成果が見られている。	【成果指標】(生徒) ・ 道徳の授業を通して自己の成長を感じている。【生15】91.2%(57.1+34.0)→87.5%(56.0+31.5) 【努力指標】(教員) ・ 道徳の授業では、グループ学習などを取り入れるなど、「考えさせる道徳」に取り組めた。【教32】84.2%(52.6+31.6)→93.3%(66.7+26.7)	肯定的に答えた生徒の割合 A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 肯定的に答えた教員の割合 A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	75%未満の場合、再検討 75%未満の場合、再検討	A A	◎道徳の授業を通して自己の成長を感じている」は、概ね良好である。多様な考えを引き出させ、お互いを認め合う中で「考え議論する道徳」を充実させ、よりよく生きていくための礎を築かせていきたい。

重点目標	具体的な取組	主担当	現状 (R2前期→R2後期)	評価の観点 (R2前期→R3前期)	達成度判断基準	判断基準	備考	
3 健康教育の充実と体力の向上	① ★食育の推進	ア 食の大切さを促す指導の継続と充実(残量ゼロ運動) 給食指導担当 + 保健主事 養護教諭	・ 【努力指標】(教員) 給食指導を通して、食育に努めている。【教18】90.0%(60.0+30.0)→90.5%(61.9+28.6) ・ 【成果指標】(生徒) 朝食を毎日食べている。(☆□)【生24】98.3%(89.5+8.8)→95.8%(88.6+7.2) ・ 【成果指標】(保護者) 子どもは毎日朝食を食べている。(☆)【保18】94.4%(86.3+8.1)→94.0%(88.3+5.2)	【努力指標】(教員) ・ 給食指導を通して、食育に努めている。【教18】90.0%(60.0+30.0)→94.4%(50.0+44.4) 【成果指標】(生徒) ・ 朝食を毎日食べている。(☆□)【生24】98.3%(89.5+8.8)→93.1%(82.9+10.2) 【成果指標】(保護者) ・ 子どもは毎日朝食を食べている。(☆)【保18】94.4%(86.3+8.1)→94.4%(84.0+10.3)	肯定的に答えた教員の割合 A 100% B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 肯定的に答えた生徒の割合 A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 肯定的に答えた保護者の割合 A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	85%未満の場合、再検討 90%未満の場合、再検討 90%未満の場合、再検討	B C C	・ 朝食を食べている(生徒:98.3%→93.1%。保護者:94.4%→94.4%)であった。食生活に課題のある生徒には、個別に食生活の大切さを指導していきたい。

重点目標	具体的な取組	主担当	現状 (R2前期→R2後期)	評価の観点 (R2前期→R3前期)	達成度判断基準	判断基準	備考		
②★体力・運動能力の向上	ア 部活動を通じた生徒の健全育成と学校の活性化	保健体育科部活動担当 + 生徒指導主事	・「部活動に意欲的に取り組んでいる」【生6】は、99.6%→95.3%。また、「部活動を通して自己の成長を感じている」【生7】生徒は多い(95.8%→94.4%)。今後も、部活動指導を通して一人一人の生徒の成長を支えていきたい。	【満足度指標】(生徒) ・ 体育の授業や部活動を通して、体力が向上した。【生17】 94.9%(77.6+17.3)→91.2%(69.4+21.8) ・ 体力テストの種目で県平均以上である。(1年 8種目、2・3年 8種目) 男子 1年6/8, 2年5/8, 3年7/8 女子 1年4/8, 2年3/8, 3年4/8 が県平均以上であった。 【満足度指標】(生徒) ・ 部活動に意欲的に取り組んでいる。【生6】 99.6%(80.4+19.1)→93.5%(71.3+22.2) 【満足度指標】(保護者) ・ 子どもは部活動に意欲的に取り組んでいる。【保3】 94.2%(66.5+27.7)→92.0%(64.3+27.7) 【努力指標】(教員) ・ 部活動を通じた生徒指導や人間形成を重視している。【教20】 94.7%(73.7+21.1)→94.1%(47.1+47.1)	肯定的に答えた生徒の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 県平均以上の種目数 A7(6)種目以上 B6(5)種目以上 C5(4)種目以上 D5(4)種目未満(2,3年) 肯定的に答えた生徒の割合 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 肯定的に答えた保護者の割合 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 肯定的に答えた教員の割合 A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	80%未満の場合、再検討	A A ~ D B B A	◎部活動に意欲的に取り組んでいる(99.6%→93.5%)と回答している。また「部活動を通して自己の成長を感じている」【生7】生徒は多い(95.7%→94.0%)。部活動が、充実するようにしていきたい。	
	イ 体力テスト結果の有効活用と体力アップ1校1プランの充実								
③メディアの適切な使用	ア 適切なメディアの使い方の指導や啓発活動	生徒指導主事 + 保健主事 + 生徒活動部	・「1日(平日)に平均してどのくらい、メール・ネット(ライン・ゲーム・動画、インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか」【生36】で、1時間以上使用している生徒は、66.2%→63.4%(3時間以上が5.1%→9.5%)いる。メールやネット、ゲームの適切な使用(時間)が、大きな課題である。	・【成果指標】(生徒)【生34】(☆) 1日(平日)に平均してどのくらい、メール・ネット(ライン・ゲーム・動画、インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか。全くしていない(8.9→13.0) 1H未満(30.5→16.2)、1~2H未満(43.6→36.6) 2~3H未満(13.6→20.8)、3H以上(3.4→) ・【成果指標】(保護者)【保22】(☆) 子どもは1日(平日)に平均してどのくらい、メール・ネット(ライン・ゲーム・動画、インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか。1H未満(33.8→21.1)、1~2H未満(39.7→48.4)2~3H未満(21.4→21.6)、3H以上(5.1→8.9)	生徒の回答割合 1時間未満 A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満 保護者の回答割合 1時間未満 A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満	55%未満の場合、再検討	D D	・メール・ネットの使用が1時間未満の生徒は、39.4%→29.2%である。約7割の生徒が、1時間以上使用している。保護者とも連携し、「かほく市ネットルール共同宣言」の推進を図っていきたい。	
	イ								
4円滑な学校運営と活性化	①組織的な学年経営・校務分掌の確立	各主任	・「様々な取組について共通理解しながら進めるよう努めている。」【教22】 100%(57.9+42.1)→100%(50.0+50.0)。 「自己の役割が明確で職務をスムーズに行うことができている。」【教24】 90.0%(45.0+45.0)→90.5%(57.1+33.3)である。一人一人が役割を明確にしながら組織的に取り組むようにしたい。	【努力指標】(教員) ・ 様々な取組について共通理解しながら進めるよう努めている。【教22】 100%(57.9+42.1)→88.9%(55.6+33.3) 【成果指標】(教員) ・ 自己の役割が明確で職務をスムーズに行うことができている。【教24】 90.0%(45.0+45.0)→83.3%(38.9+44.4)	肯定的に答えた教員の割合 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 肯定的に答えた教員の割合 A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	80%未満の場合、再検討	C B	・職員間のコミュニケーションの充実を図り、様々な行事や取組の意義や意味を理解しながら取り組めるようにしていく。	
	②学校評価を生かした学校運営	教務主任 + 学年主任	・日頃の生徒や保護者との関わりを大切に取組を進めていきたい。学校評価を生かしていると回答した教職員(後期アンケート)は、100%であった。今後も、学校評価を生かした取組を実施していく。【教25】 95.0%(60.0+35.0)→90.5%(57.1+33.3)	【努力指標】(教員) ・ 学校評価アンケート等の結果を分析し、次の改善策を練り、改善に努めている。【教25】 95.0%(60.0+35.0)→77.8%(38.9+38.9)	肯定的に答えた教員の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	80%未満の場合、再検討	D	・アンケートのデータをもとに検証・改善のPDCAサイクルを活かした取組をより推進していく。	
	③信頼される連携強化	ア 小中連携による9年間を見通した教育の充実	教務主任 + 生徒指導主事 + 研究主任 + 生徒会担当	・「学校便り等で、学校の方針や子どもの様子などが伝わってくる。(☆)」【保20】の肯定的評価は、92.3%(38.7+53.6)→92.7%(37.1+55.6)、概ね良好である。	【成果指標】(教員) ・ 小中連携において、教職員間の交流や児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めることができた。【教23】 85.0%(30.0+55.0)→50.0%(16.7+33.3)	肯定的に答えた教員の割合 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	80%未満の場合、再検討	D	・コロナ対応で行事が中止になったが、小中の情報交換を大切にし、しっかりと連携を進めていきたい。
	イ 学校便りやHP等による広報活動の充実	教務主任 + 学年主任		【成果指標】(保護者) ・ 学校便り等で、学校の方針や子どもの様子などが伝わってくる。(☆)【保20】 92.3%(38.7+53.6)→92.5%(34.3+58.2)	肯定的に答えた保護者の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	80%未満の場合、再検討	A	◎学校での子どもの様子が伝わるように、各種便り等の充実を図っていく。	
④コミュニティ・スクールづくりの推進	ア 地域人材活用による学校教育の活性化	教務主任 + コミスク担当	・地域人材を活用した教育活動は、ぶどう学習、職場体験、専門家を招いた講演・実習等多い。新学習指導要領の理念の一つである「社会に開かれた教育課程」を具現化していくためにコミュニティスクールを生かしていきたい。	【成果指標】(教員) ・ コミュニティ・スクールを生かして地域人材を活用することができた。【教33】 78.9%(31.6+47.4)→88.2%(41.2+47.1)	肯定的に答えた教員の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	70%未満の場合、再検討	B	・教員の「コミュニティ・スクール事業を生かした人材活用」は、概ね良好である(78.9%→88.2%)地域人材を活用した取組を推進していきたい。	
	イ 保護者・地域との確かな信頼関係の構築	教務主任 + 学年主任		【成果指標】(保護者) ・ 学校は保護者や地域と連携した取組を行っている。【保11】 90.1%(28.9+61.2)→91.5%(30.5+61.0)	肯定的に答えた保護者の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	70%未満の場合、再検討	A	◎コミュニティ・スクールや協力的なPTAの強みを生かした実践を行ってきたい。	
5働き方改革	①働き方改革の推進	管理職 + 教務主任 + 部活動担当	・時間外勤務時間は、減少傾向にあるが、依然として80時間を越えている教員もいる。職員会等を使い職員にその意義などを伝え、意識改革を図りたい。	【成果指標】(教員) ・ 効率的、効果的な取組がなされるような意識を持った働き方(働き方改革)を行っている。【教34】 70.0%(10.0+60.0)→50.0%(38.9+33.3)	肯定的に答えた教員の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	80%未満の場合、再検討	D	・時間外勤務時間(平均)は、減少している。しかし、時間外勤務時間80時間以上の職員が、依然として多い。取組を徹底していきたい。	